

地下の諸条件を克服し、理想の外防水を実現する新工法

地下構造体への外防水は、躯体内部への水の侵入を防ぐと共に塩分などを含んだ水から躯体を保護するために必要不可欠な工法です。しかし、施工面の凹凸、不十分な乾燥、セパレータ等の突起物、埋め戻しの際の土圧など、地下特有の諸条件が、従来の防水工法では大きな障害となってきました。超速硬化スプレーアップシステムによるハイポリマーウレタンゴム成膜技術により、躯体を高い性能で被覆し、信頼性の高い防水効果、保護効果を実現したのがダイフレックスの外防水工法です。

- ・東京都建設局新技術登録 (19土技支第439号 0701021)
- ・東京都港湾局新技術登録 (19港整技第143号 19004)
- ・技術審査証明 (技審証第0422号SQS工法) / (財) 土木研究センター
- ・ARIC農業農村整備新技術 (190、名称:SQS工法) / (社) 農業農村整備情報総合センター
- ・阪神高速道路株式会社 新技術登録 (名称:地下防水・ケーソン外防水) / (財) 阪神高速道路管理技術センター

CVスプレー工法の特長

1 工期・工費削減のローコスト工法

先防水施工は下地を作らずSMW等の山留め壁に直接施工するため、防水下地に要した工期、工費を削減できます。また、後防水施工は、躯体にしっかりと接着するため、埋め戻しの際の保護材が必要なく、工期、工費を削減できます。

2 複雑な形状もシームレス完全防水

超速硬化スプレー施工のため、シームレスで水密性の高い防水層を形成できます。しかも、セパレータ、中間杭廻りなどの複雑な形状も確実に接着してトレースするため、水が内部に入るのを防ぎます。

3 均一、高物性メンブレン防水

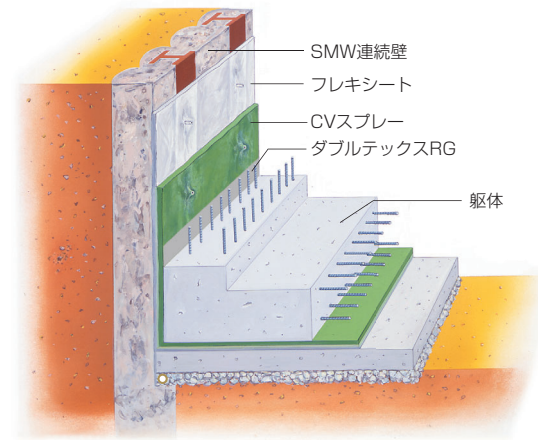
機械管理された施工システムにより、一定量材料分が供給され、外気温などの作業環境に左右されることなく、均一で高品質な塗膜物性を実現します。

4 優れた耐久性

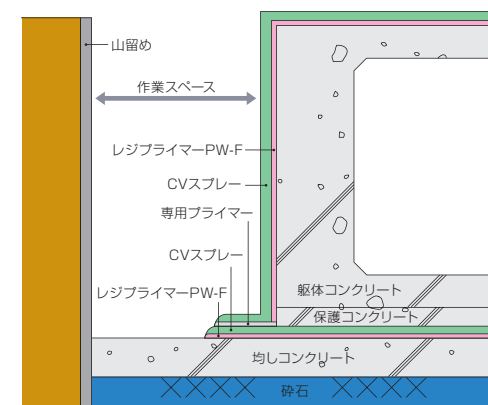
80℃の加熱処理および-50℃の環境下において物性低下することはありません。また、成膜したものは塩分が全く透過せず、さらに海水中においても接着性能は低下しません。

工法 CVスプレー工法

先防水施工



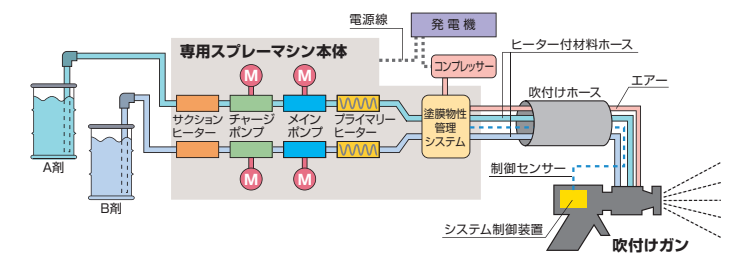
後防水施工



※図の中の材料の色は、実際の材料の色とは異なります。

専用スプレーマシン

専用スプレーマシンは従来オペレーターの目視や経験に頼っていたマシンを温度・圧力・流量のデータをフィードバックし記録するだけでなく、自己診断し制御する【塗膜物性管理システム】を内蔵。施工品質管理において大きな信頼を得ることができます。



仕様

CVスプレー (先防水施工)

工程	材料名	標準使用量	備考
1	フレキシート (不織布)	1.05m	
2	固定釘等	5本以上	
3	補助テープ	0.7m	
4	CVスプレー (膜厚2.0mm以上)	2.55kg	塗り継ぎが発生した場合は、専用プライマーを使用して下さい。
5	ダブルテックスRG	0.2~0.3kg	

●CVスプレーの比重は約1.0です。

CVスプレー (後防水施工)

工程	材料名	標準使用量	備考
1	レジプライマーPW-F (セメント添加)	※0.2kg	※下地によりプライマーの吸い込みが著しい場合は再塗布して下さい。
2	CVスプレー (膜厚2.0mm以上)	2.55kg	

●CVスプレーの比重は約1.0です。